

IR 室長メッセージ

九州大学インスティテューショナル・リサーチ(IR)室は、平成 28 年 4 月に設置されました。大学の諸活動の自己点検・評価とその結果の分析に基づいた改革・改善は、大学の機能強化に不可欠となっています。このため国立大学法人には、自らが定めた中期目標・計画の達成度に関する法人評価、教育の質保証のための認証評価への対応が法的な義務となっています。本学では、法人化以前の平成 13 年に大学評価を推進する評価情報開発室を設置し、その後、業務の拡張に伴い、平成 16 年に大学評価情報室に改組して体制を強化し、「国立大学法人評価」や「大学機関別認証評価」等の業務を担当してきました。大学評価情報室は、このような評価業務には対応できませんが、自己点検・評価の結果を分析し、数値指標やエビデンスを伴った定性的な指標に基づいて、大学の改革・改善の推進を支援する機能は殆ど備わっていませんでした。九州大学 IR 室は、総長のリーダーシップの下に、大学の運営や経営を戦略的にマネジメントできるガバナンス体制の充実を支援する目的で、評価業務に加え、この機能を強化した部署として設置されたものです。中央教育審議会大学分科会によれば、IR とは、「教育、研究、財務等に関する大学の活動についてのデータを収集・分析し、大学の意思決定を支援するための調査研究」とされています。

「客観的かつ精査された説得力のあるデータ」に基づいて改革・改善の方針を示すことによって、大学の構成員が、改革・改善の必要性を共通に理解でき、また、改革・改善の方針への合意形成も進むと考えられます。このような観点から、IR 室の最も重要な業務の一つは、「客観的かつ精査された説得力のあるデータ」を集積することです。

これまで大学の各部署には、多種多様で膨大な数のデータが蓄積されてきました。しかも担当部署（時には担当者）が最も収集しやすい形、利用しやすい形、あるいは提出要請先の要求に沿う形などで集積されてきました。さらには、同じ種類の同じ期間を対象にしたデータであっても、データの定義が異なっている場合も少なくありません。このような状況下では、単にデータの提供元から IR 室が収集しただけでは、「客観的かつ精査された説得力のあるデータ」にはなり得ません。IR 室では、事務部各部署の尽力のもとで、学内に散在するデータを「客観的かつ精査された説得力のあるデータ」にするべく集積を実施してきました。一方で、データの情報公開には格段の留意が求められます。この点についても、公開範囲の区分を精査し、データの集積元とも協議をしながら区分けを進めてきました。

この「KYUSHU UNIVERSITY FACT BOOK 2020」は集積・整理したデータの一部ではありますが、大学や各部局等の現状を把握し、改革・改善や将来計画策定に利用していただくことを目的に作成しており、データを「経年」で表現することで、本学の「これまで」を読み取り、その上で「この先」をある程度推測することが可能となっています。

さらに、大学の研究力分析の一例も掲載しており、これを参考に各部局では SciVal や Pure を活用して、自部局の研究力分析を行っていただきたいと考えています。

また本書は、IR 室 Web サイト上で PDF 版及び Interactive 版として公開しています。中でも Interactive 版は、随時データを更新し、さらには利用者が必要な情報だけを選択・表示することが可能となっておりますので、是非ご活用ください。

前述のとおり本書は Web 上で公開しており、九州大学の構成員はもとより、学外から九州大学を支えていただいているステークホルダーの皆様にも、九州大学の現状をご覧いただけるようになっています。今後 IR 室がなすべき評価と改革・改善支援の機能を充実させるためにも、皆様方からのご協力とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和 2 年 11 月 IR 室長

